

# JOHN LAWLOR 教授紹介

井村 君江

John Lawlor 教授は、デヴォンシャーのプリマス出身。父親はアイルランド、コーク、母親はイギリス、プリマス出身。オックスフォードの Wilde が籍を置いたモダレンに学び、在学時代には C.S.Lewis と Tolkien の指導の元に中世文学を専攻。Pater が学んだブレズノーズ・カレッジの教授となり、Chaucer, Langland 等中世文学、及び Shakespeare, Arthurian Legends 等を研究し教えた。戦後イギリスで Margaret 王女を顧問に初めて設立された大学 University of Keele の文学部長として招かれ、新しい大学造りに専念する（当時の著書に *The New University* 1968 がある。『新しい大学』上村達雄訳 時事通信社 1970）。アメリカの Folger Shakespeare Library の講師を勤めたほか、カリフォルニア、カナダ、メキシコ、フランス、イタリア、ハワイ等の各大学に講師としての経験を持つ。現在 IAUPE (International Association of University Professors of English) の顧問（1986 年（来年）York 大学で世界大会）。ストラトフォードの Shakespeare Society の理事。C.S.Lewis Society の顧問（1984 年（昨年）のスイス大学では講演を行う）。

1982年にオックスフォードの家をたたみ、アーサー王伝説、トリスタンの国リオネスであるコーンウォールのマラザイアンに居を定め、潮騒を聞きながら詩作や執筆の生活を送っている。モダレン・カレッジのワイルドの学生時代に暮した部屋が解体されたとき、黄色いブラッシー張りの椅子と茶色い革張りユートリー製ヴィクトリア風の机を引きとったが、前者は友人に贈呈、後者はいま二階の書斎、海に浮ぶ伝説の鳥型マイケル・マウントの城が見渡せるベイ・ウインドの傍に置かれている。主な著書は次の通りである。

- *The Tragic Sense in Shakespeare* 1960
- *Piers Plowman: An Essay in Criticism* 1962
- *Chaucer* 1968
- *Patterns of Love and Courtesy* 1966
- *To Nevill Coghell from Friends* 1966  
(W.H.Auden と共著)
- *Introduction to Le Morte D'arthur* 1969  
(Penguin)

この他、C.S.Lewis, Shakespeare, Tristan 伝説に関する未発表の論文が数多くあり、編纂書も多い。